



牛久市【茨城県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度：平成31年3月 ■ 人口：85,076人 ■ 市域面積：58.92km²
■ 担当課：牛久市教育委員会文化芸術課（平成31年3月現在）



牛久市の歴史は旧石器時代から連綿と形成され、明治時代に開設された重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設は日本初の本格的ワイン醸造場として、日本にワイン文化を定着させるとともに、日本の近代化に大きな貢献をした。市民がふるさとへの誇りと愛着を深め、文化財を保存・活用し、「暮らし続けたいまち」、「豊かな心と文化を育むまち」、「来訪者が再び訪れたいまち」を目指す。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交通の要衝、内海、中世城郭、
近代化産業遺産、近代芸術文化遺産

課題

- ・ 指定・登録文化財類型の偏り
- ・ 文化財の保存と活用の両立
- ・ 少子高齢化等により失われつつある文化遺産
- ・ 文化財の保存公開施設がない

保存活用方針

- ・ 郷土教育の推進
- ・ 歴史文化を活かした魅力あるまちづくり
- ・ 文化遺産の次世代への継承
- ・ 保存活用のための運営体制、施設の整備

保存活用のための取り組み

『牛久市文化財ガイドブック』 の刊行

平成27年に刊行した『牛久市文化財ガイドブック』は、市内の文化遺産の悉皆調査の成果を纏めたもので、文化遺産のほか、公的施設、歴史ある社寺や伝承地などをプロットした市域全体の地図を掲載しているのが特徴。市ホームページからダウンロード・閲覧することが可能。



牛久歴史リレー講座の開催

文化財主管課と生涯学習主管課の連携により、毎年「牛久歴史リレー講座」と称し、第一線で活躍する研究者を講師として招き、受講する市民に対し、牛久の歴史文化の特徴をわかりやすく解説する講座を開催。



展示による公開活用事業の実施

常設の文化財展示公開施設を持たない牛久市では、かっぱの里生涯学習センター内のかっぱの里ギャラリーなど利用し、所蔵文化財を展示し、普及啓発に努めている。また、民間企業とのコラボレーションで民間施設を利用し、企画展示を実施することで公開活用事業を進めている。



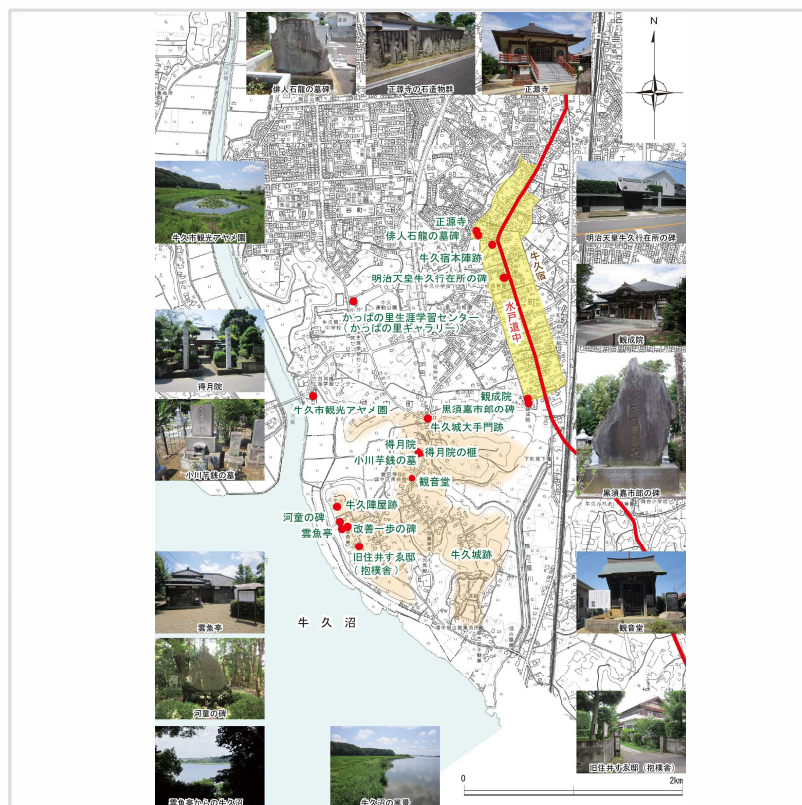
重要文化財を活用したユニーク ベニュー

東日本大震災から復旧した国指定重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設を会場に、牛久市初の大規模3Dプロジェクションマッピングを実施し、復旧した重要文化財の活用を図るとともに、「ワインの街うしく」の魅力を市内外に発信。





関連文化財群



牛久市は、中世から近代にかけて核となる文化遺産がある。中世においては、後北条氏と佐竹氏の境目の地として、市域を統治していた岡見氏の拠点である牛久城を中心に多くの城郭が築かれた。さらに、近代にはフランスから導入した知識と技術により、ブドウ栽培からワイン醸造、瓶詰めまで一貫して行なう日本初のワイナリーであるシャトーカミヤ旧醸造場施設が建設され、日本のワイン文化の黎明期を支えた。

ストーリー

- ①内海と街道を結ぶ牛久の中世社会
- ②日本の近代化とワイン文化
～文明開化の薫る町～
- ③牛久沼のほとりで華開く芸術文化



策定後の成果（見込まれる効果）

①新たな文化遺産の掘り起こし

市内の未指定の建造物や仏像など地域住民が大切に保存してきた文化遺産を、大学等の研究機関と共同で調査を実施する。共同調査の成果をもとに行政は指定・登録を進めることで、文化遺産の散逸等を防止している。また、地域住民が文化遺産の歴史と価値を再認識することで、文化遺産の継承が図られている。



②文化遺産を活用した地域活性化

市民の文化遺産に関する学習機会の充実、特に次世代を担う子どもたちが地域への愛着と誇りを育むため、文化遺産活用補助金を活用し作成した「牛久市文化財ガイドブック」などを活用し、教育環境の充実が図られている。さらに、文化遺産の効果的な情報発信や展示保管施設の設置などが進み、観光振興・地域活性化が図られている。



③文化財保護体制の充実

文化遺産を適切に保存活用するために、行政には文化財専門職員が配置されるとともに、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議する文化財保護審議会が有識者によって組織されている。また、適宜文化庁や茨城県の文化財担当部局と密に連携が図られていて、文化財保護体制が整備、充実している。

